

児の飴食ひたること

ある山寺の坊主、慳貪^{けんこん}なりけるが、飴^ちを治^ちしてただ一人食ひけり。
欲深くけちであつた者が、飴を作つて

よくしたためて、棚に置き置きしけるを、一人ありける小児^{1 小児}に食は
しつかりと管理して、

せずして、「これは人の食ひつれば死ぬる物ぞ。」と言ひけるを、こ
「これは人が食べてしまうと死ぬるものだぞ。」

の児、あはれ、食はばや、食はばやと思ひけるに、坊主^{たぎやう}他行^{ひま}の際に、
ああ、食べたいものだ、食べたいものだ

棚より取り下ろしけるほどに、うちこぼして、小袖^{2 小袖}にも髪にもつけ
に、

たりけり。日ごろ欲しと思ひければ、二、三杯よくよく食ひて、坊
主が秘蔵^{ひさう}の水瓶^{3 水瓶}を、雨垂^{4 雨垂}りの石に打ち当てて、打ち割^きりておきつ。
割^きつておいた。

坊主^{かみ}帰^{かへ}りたりければ、この児、さめほろと泣く。「何事^{なんじ}に泣くぞ。」
と問へば、「大事^{だいじ}の御水瓶^{おんみずびん}を、あやまちに打ち割^きりて候^{さう}ふ時に、いか
なる御勘当^{ごかんだう}かあらんずらんと、口惜^{くしやく}しくおぼえて、命^{いのち}生きてもよし
めを受けることになろうかと、

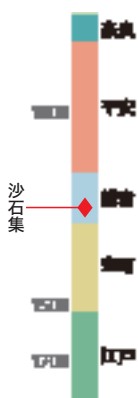
なしと思ひて、人の食へば死ぬと仰^{おほ}せられ候^{さう}ふ物を、一杯食へども
死^しなず、二、三杯まで食べて候へども、おほかた死^しなず。果^はては小袖
につけ、髪につけてはべれども、いまだ死^しに候はず。」とぞ言ひける。
は

飴は食はれて、水瓶は割られぬ。慳貪^{けんこん}の坊主、得るところなし。
割^きられてしまった。

児の知恵ゆゆしくこそ。学問^{がくもん}の器量^{きりやう}も、むげにはあらかし。
尋常^{じんじやう}ではない。

才能^{さいのう}もきつと並大抵^{へいだいだい}ではないことだろうよ。

（沙石集^{させきしふ}）



1 小児 小さい児。「児」は、学問や行儀作法を習得するために寺院に預けられた少年。

2 小袖 袖丈の短い着物。

3 水瓶 仏具。飲用や手洗い用に水を入れるもの。

4 雨垂りの石 土に穴があかないように、軒先の雨だれの落ちる所に置いた石。